

2024 年度  
青山学院大学大学院  
社会情報学研究科社会情報学専攻  
博士前期課程(第 2 期)入学試験

コース共通

「英語」  
問題冊子

受験番号：	氏名：
-------	-----

[注意事項]

1. 本問題冊子は表紙を含め全 3 頁、解答冊子は全 2 枚である。
2. 問題冊子及び解答用紙一枚ごとに、受験番号と氏名を必ず記入すること。
3. 解答冊子、問題冊子とも全て回収するので、綴じたままにしておくこと。

博士前期課程 コース共通  
「英語」問題用紙 (2024 年度第 2 期入学試験)

問題 I 次の文章を読み、日本語に訳しなさい。

The ubiquitous<sup>1</sup> nature of the internet, rapid growth of connectivity,<sup>2</sup> and increasing use of different technologies have also led to increased challenges when it comes to cybersecurity. More businesses are concerned with being targets of cyberattacks. As more and more of the world comes online, cyberattacks continue to proliferate<sup>3</sup> across the world.

Cybersecurity is an ongoing issue for businesses of all sizes. Increasingly, consumers provide a vast amount of their data to businesses, ranging from credit card information to sensitive data like social security numbers.<sup>4</sup> While in the past cyberattacks against individuals were more commonplace,<sup>5</sup> with the amount of data being stored by businesses, malicious<sup>6</sup> actors now directly attack businesses to obtain vast amounts of personal and private data. Attacks to steal proprietary<sup>7</sup> data or information on employees as well as those that simply bring everything to a grinding halt<sup>8</sup> until a monetary payment is made, are becoming more common.

The scale<sup>9</sup> of attacks, methods of attacks, and objectives of the cyberattack vary<sup>10</sup> greatly. Attacks can vary from single-user individual-level attacks to system-wide or network-wide attacks. These cyberattacks can seek to target individuals, organizations, and even nations. At the individual level, the attacks may want to obtain personal information or scam<sup>11</sup> data for small amounts of money. Recent data on the top five concerns<sup>12</sup> individuals have when it comes to cyber threats shows that even at the individual level, the threat posed by cyberattacks includes identity theft,<sup>13</sup> and virus attacks.

語注

ubiquitous\*1 いたるところに存在する、connectivity\*2 接続性、proliferate\*3 拡散する、social security number\*4 社会保障番号、commonplace\*5 ありふれた、malicious\*6 悪意のある、proprietary\*7 独自の、grinding halt\*8 急停止、scale\*9 規模、vary\*10 異なる、scam\*11 詐欺、concern\*12 懸念、fraud\*13 詐欺

問題Ⅱ 次の質問に英語で答えなさい。

Many workers in companies face challenges in achieving a work-life balance. What factors do you think might support or hinder work-life balance and foster a healthier and more sustainable work environment for workers?

Write your thoughts in at least 10 sentences in English.

語注

hinder \*1 妨げる

foster \*2 養育する

2024 年度  
青山学院大学大学院  
社会情報学研究科社会情報学専攻

# 博士前期課程(第 2 期)入学試験

## 社会情報学コース

### 「小論文」 問題冊子

受験番号：	氏名：
-------	-----

#### [注意事項]

1. 志願したコースの問題冊子であることを確認すること。
2. 本問題冊子は表紙を含め全 2 頁、解答冊子は全 2 枚である。
3. 問題冊子及び解答用紙一枚ごとに、受験番号と氏名を必ず記入すること。
4. 解答冊子、問題冊子とも全て回収するので、綴じたままにしておくこと。

博士前期課程 社会情報学コース  
「小論文」問題用紙 (2024 年度第 2 期入学試験)

【問 題】

公刊された研究論文で報告された結果が後の研究で再現されないことが、近年、「再現性問題」あるいは「再現性の危機」として議論されています。実験的手法を用いる心理学と医学がこの議論の中心ですが、科学一般の問題です。科学には仮説や命題を否定することで進歩するという側面がありますから、研究の結果が否定されることは一概に悪いとは言えません。それでも、再現性は科学であることの重要な要件のひとつですから、再現性が低いことは問題です。

研究結果が再現されない原因として、データの捏造など悪意ある不正のほか、「問題のある研究慣習 (questionable research practices, QRPs)」が挙げられます。たとえば、集めたデータの中から都合のよい一部を抜き出す、標本を徐々に大きくして統計的に有意な結果となったところで停止する、結果を得てからそれと整合的な仮説を考える、などです。

大学院でのあなた自身の研究、あるいは関連する研究において、再現性のある結果を報告するためにどのような工夫を行うことができるか、改行に伴う空白も含め 1,000 字以内で述べなさい。

2024 年度  
青山学院大学大学院  
社会情報学研究科社会情報学専攻

# 博士前期課程(第 2 期)入学試験

## ヒューマンイノベーションコース

### 「小論文」 問題冊子

受験番号：	氏名：
-------	-----

[注意事項]

1. 志願したコースの問題冊子であることを確認すること。
2. 本問題冊子は表紙を含め全 2 頁、解答冊子は全 2 枚である。
3. 問題冊子及び解答用紙一枚ごとに、受験番号と氏名を必ず記入すること。
4. 解答冊子、問題冊子とも全て回収するので、綴じたままにしておくこと。

博士前期課程 ヒューマンイノベーションコース  
「小論文」問題用紙（2024年度第2期入学試験）

【問題1】（全1問）

知識や技能を身につけていく「学習」と、これまでにない新たなものを生み出す「創造」との間にはどのような関係があると考えられるか。具体的事例を挙げつつ論じなさい。